

大阪市文化課所管事業の進捗状況について

大阪市文化振興計画（H25.4～H28.3）に係る主な施策・取組みの進捗状況と成果
基本方向A「文化創造の基盤づくり」

①「大阪の街を使いこなす」～都市全体を発表の場に！

NO.	施策・取組み	概要	①施策・取組の進捗状況	②これまでの成果	H27当初 予算(千円)
1	大阪クラシック	初秋の1週間、御堂筋・中之島界隈において、無料または低料金のクラシックコンサートを集中的に開催し、街に音楽のあふれる1週間を演出し、人の流れや賑わい創出に取り組む。	（おもなアーツカウンシルからの評価、改善提案等） 集客実績は評価に値するが、他事業等との連携、各媒体を使った情報発信の強化が必要。 （おもな改善取り組み等） 水都大阪とのブレ企画実施など観光部門や民間事業者等との連携を行った。 特設サイトの開設やツイッター等を活用した情報発信の充実を図った。	■御堂筋界隈の民間施設にも会場協力等をいただきながら、「御堂筋」「中之島」をクラシックの発表の場として活用。 ■今年で10回目。これまでの9回で、公演回数717回、集客数延べ38万人。 ■平成26年度 実績 集客人数：81公演・50,250人 （うち初めて来場した人 16,000人（32%）） ※直近比較 1公演当たりの集客数：H25 528人 → H26 602人	32,850
2	野外演劇フェスティバル	大阪市内の公園等を舞台として、複数の劇団が野外劇を開催する。	（おもなアーツカウンシルからの評価、改善提案等） 公共空間の活用には一定の成果があるが、フェスティバルとしての一般の認知度が低い ため、広報等の工夫が必要。 （おもな改善取り組み等） フェスティバル全体のチラシや市のHPによる情報発信を行った。	■大阪城公演や扇町公園などの公共空間で実施 ■平成26年度実施結果：5劇団参加、延べ21公演 ■大阪らしさを出しながら、国内有数の野外演劇イベントとして、今年度で15回目を迎える	—

②「府民の思いを都市づくりに活かす」～官民協働のプラットフォーム

NO.	施策・取組み	概要	①施策・取組の進捗状況	②これまでの成果	H27当初 予算(千円)
3	芸術創造館における演劇事業・音楽事業等	芸術創造館を、練習室とホールを兼ね備えた演劇・音楽のインキュベーションセンターと位置付け、発掘・育成・プロモーション事業を実施している。	（おもなアーツカウンシルからの評価、改善提案等） 全国区で活躍する劇団なども出ており、一定の事業成果を上げているが、練習・発表の場としては定着してきていても、観客はさほど増えていないので、鑑賞者を増やす取り組みも必要。 本事業は、芸術創造館を使用することが条件の事業であるだけに、市直営実施よりも、指定管理者による実施の方が適切。 （おもな改善取り組み等） 本事業の実施については、平成28年度から指定管理者自身による取組みとなるよう検討中。	■平成26年度は新人アーティストの発掘・育成を目的として、演劇事業として、「大大阪舞台博覧会」、音楽事業として、「オオサカミュージックグランプリ」を実施。 ■平成26年度事業実績 音楽：24団体参加 一般集客1公演・20名 演劇：40団体参加 一般集客12公演4WS・1198名	10,792

③「府民の力で文化を育てる」～民間の力を最大限に活かす仕組みづくり

NO.	施策・取組み	概要	①施策・取組の進捗状況	②これまでの成果	H27当初 予算(千円)
4	芸術・文化団体サポート事業	あらかじめ登録された芸術・文化団体の中から、寄附者が応援したい団体を選択し、寄附できるメニューをふるさと寄附金に設け、その寄附金を財源として、寄附者の希望を考慮のうえ、助成金を交付することによって、芸術・文化団体の支援を行う。	(事業実施に向けた取り組み等) 助成の対象となる登録団体の公募・登録を行い、5月28日から募金を開始した。	—	5,000

基本方向B「都市魅力の向上」

④「地域資源を活かした大阪の魅力向上」～大阪ミュージアム構想の推進

NO.	施策・取組み	概要	①施策・取組の進捗状況	②これまでの成果	H27当初 予算(千円)
5	咲くやこの花賞受賞者等支援事業	「咲くやこの花賞」受賞者等の交流を図るとともに、受賞者の公演、作品発表機会を提供し、大阪ブランドとして「咲くやこの花賞」の定着を図る。	(おもなアーツカウンシルからの評価、改善提案等) 咲くやこの花賞受賞者の次のステップをサポートするという原点に立ち返り、事業を見つめ直す必要がある。 ホームページは、イベント後の報告は充実しているが、もっと活用すべき。 (おもな改善取り組み等) 実施事業のうちでも、よりサポートに重点を置いた企画である「咲くやこの花コレクション」の開催回数を増やした。(H25 3回 → H26 8回) ホームページ以外にもフェイスブック、ツイッターを使ったこれまでの受賞者の活動紹介を開始した。	■平成26年度実施事業 歴代の咲くやこの花賞受賞者等による公演として、以下のとおり実施 「咲くやこの花芸術祭」10月18日開催 中央公会堂にて、落語や文楽などの5プログラムを 実施。 「咲くやコレクション」 歌舞伎や現代美術展などの催しを個別で8回開催 ■平成26年度事業目標/実績 各公演のアンケート結果 満足度90%/91% 咲くやこの花賞認知度75%/78%	21,950

6	映像文化振興事業の推進	アジア映画の紹介(コンペティション、未公開作品)、ゲストとの交流会、字幕講座、大阪をロケ地とした助成作品の制作・上映(CO2)等	<p>・CO2 (おもなアーツカウンシルからの評価、改善提案等) 商業的ではない芸術的な作家の発掘に期待。 他の映画祭やメディアとの連携などを通じて作品発表の場を作り、広く市民に知られる努力も必要。 映像制作者の育成事業として、より効果的な手法の研究、改善が必要。</p> <p>(おもな改善取り組み等) 企画応募事業において、指定した俳優の出演を条件とする規制を設けるなど、映像制作者のレベル向上を目的とした実施内容の改善を行った。</p> <p>・アジア映画祭 (おもなアーツカウンシルからの評価、改善提案等) 海外のインディペンデント系の映画などを見せるこのような機会は、映像制作を志す若い世代への刺激となり、文化的意義に加え、国際交流、産学官をつなげるソフト面の開拓などの価値も生まれる。</p> <p>(おもな改善取り組み等) 映画ファン以外にも当該事業を周知することを目的とした、映画祭のチラシ・ポスターに関するデザイン公募を実施。</p>	<p>■平成26年度実施事業</p> <p>・CO2 8月に俳優特待生オーディション実施。選ばれた1名は、CO2助成作品に主演し、アジア映画祭参加作品としてエントリーされた。 また、夏季特別ワークショップとして、俳優・演出集中講座も開催。</p> <p>・アジア映画祭 3月にアジア映画の最新作、話題作を集め、実施。ウェルカムパーティーなどの関連イベントやアジア映画祭ポスター展などのプレイベントなども実施した。</p>	28,750
7	クラシック音楽普及促進事業	大阪フィル会館の一部を音楽練習等市民利用に提供、市民向けコンサートの実施	<p>(おもなアーツカウンシルからの評価、改善提案等) 市民利用部分の稼働率を上げるための具体策の検討が必要。また、地域との連携した事業も活用に行ってもらいたい。</p> <p>(おもな改善取り組み等) 大阪フィル会館の市民利用部分の利用促進のために、ホームページで周知を図るとともに、会館を活用した市民コンサートについては、区の意向を受け、地元学生との関わりをもつコンサートの開催についての検討などを行っている。</p>	<p>■平成26年度事業実績</p> <p>賞館利用率 34% 西成クラシック観客数 253人</p>	11,414
8	地域文化事業	区役所等の行う芸術文化活動を支援している	<p>(おもなアーツカウンシルからの評価、改善提案等) 実施希望として応募のある区・事業に、偏りと固定化の傾向がある。応募のない区側の理由を検証し、広く活用してもらう工夫が必要。</p> <p>(おもな改善取り組み等) 地域の芸術活動がさらに活発となるよう、各区へ応募を積極的に促すなどの取り組みを行った。</p>	<p>■平成26年度各区での実施状況</p> <p>人形劇フェスタ(住之江区)など、計12区で実施 ※参考：平成25年度実施区：11区</p>	10,180
9	現代芸術振興事業(プレーカープロジェクト)	地域の資源を活用し、まちなかで市民が現代芸術に触れる機会を創出することを目的として、フィールドワークや作品制作を通して、地域との関係を作りながら芸術家とともに様々なプロジェクトを実施している。	<p>(おもなアーツカウンシルからの評価、改善提案等) アーティストにも地域にも有効なアートプロジェクトを目指して活動を行っており、その成果については、アートの世界では評価が高い。この活動を通して、地域にどんな課題があり、どう取り組んできたかを広く発信してほしい。</p> <p>(おもな改善取り組み等) 西成区の山王を活動拠点として、そこを中心として地域に密着した事業実施を行っている。今後は、活動エリアをさらに広げ、より積極的にいろんな地域とのかかわりが深まる事業内容となるよう、さまざまな企画を検討中である。</p>	<p>■平成26年度実施事業</p> <p>展示・ワークショップ等の参加者数：3プログラム 計2,931名</p>	8,870

⑤「大阪固有の文化の継承、新たな文化の創造」

NO.	施策・取組み	概要	①施策・取組の進捗状況	②これまでの成果	H27当初 予算(千円)
10	咲くやこの花賞	将来の大阪文化を担うべき概ね40歳以下の若手芸術家に対し、「咲くやこの花賞」を贈呈している（美術、音楽、演劇・舞踊、大衆芸能、文芸その他の5部門を設定）。	<p>（おもなアーツカウンシルからの評価、改善提案等）</p> <p>咲くやこの花芸術祭などのフォローアップ事業により、受賞者のネクストステージをつくる流れが定着してきた。ホームページなどで、市事業以外での受賞者の活動も紹介するなど、さらなる支援を期待したい。</p> <p>（おもな改善取り組み等）</p> <p>ホームページにおいて、受賞者自身の活動紹介などを開始した。</p>	<p>■平成26年度までで各部門の受賞者を合わせて、150組以上の受賞者を数える。</p> <p>受賞者の多くは、この受賞を契機として活躍の場を増やしていている。</p>	3,500
11	大阪文化賞、大阪文化祭賞	大阪の芸術文化に貢献のあった方や優れた公演を表彰することにより、大阪の文化芸術活動の活性化を図っている。	<p>・大阪文化賞 （アーツカウンシルからの評価、改善提案等）</p> <p>大阪の個性を発揮する賞となるよう、対象や選者について見直しを図られたい。受賞後も、活躍してもらえるようなステージづくりも必要。</p> <p>（おもな改善取り組み等）</p> <p>大阪の個性が発揮される賞となるよう、その視点を持った新たな選考委員を加えた。</p>	<p>■直近（平成26年度）の受賞者：丸谷明夫氏（吹奏楽）</p>	1,805
			<p>・大阪文化祭賞 （アーツカウンシルからの評価、改善提案等）</p> <p>参加者はほぼ常連化していて、新たな広がり欠ける。この形では一定の役割を終えたと考えるので、年間賞に改革してはどうか。</p> <p>（おもな改善取り組み等）</p> <p>年間を通して行われるすべての公演を対象とした。</p>	<p>■直近（平成26年度）の受賞公演</p> <p>最優秀賞：舞劇会主催山村流六世宗家 山村友五郎「三代目山村友五郎・四代目山村若 襲名披露舞劇会」</p> <p>優秀賞：維新派「透視図」、いずみホール「いずみホール・オペラ2014 歌劇フィガロの結婚」</p> <p>奨励賞：第24回上方歌舞伎会出演者一同「第24回上方歌舞伎会」、林家花丸「林家花丸独演会～人と人、情と情」、安積瑠璃子「大阪バレエ・カンパニー公演『海賊』における主役メドレーの成果、関西弦楽四重奏団「関西弦楽四重奏団」演奏会</p>	
12	三好達治賞	三好達治を顕彰し、あわせてその年最も優れた詩集を発表した詩人に贈呈	<p>（おもなアーツカウンシルからの評価、改善提案等）</p> <p>基金がある間は継続実施。受賞作の発表、贈呈式の公開等のほか、その時期にあわせて図書館に特集スペースを設けてもらうなど、もっと世間へアピールすべき。</p> <p>（おもな改善取り組み等）</p> <p>賞の応募期間中には特設コーナーを設置してもらうなど大阪市中央図書館と連携し、PRを強化した。</p>	<p>■直近（平成26年度）の受賞者：高橋順子「海へ」</p> <p>■文学界の人材育成と 大阪の文学振興、大阪文化の全国発信を行っている。</p>	3,500
13	織田作之助賞	大阪文学振興会、関西大学、毎日新聞とともに、織田作之助を顕彰し、「織田作之助賞」、「織田作之助青春賞」「織田作之助U-18賞」を贈呈	<p>（おもなアーツカウンシルからの評価、改善提案等）</p> <p>受賞者が話題となる作家が続き、賞自身のプレゼンスが高まっている。新たに18歳以下の部門をつくる若手育成もいいアイデア。さらに、講演会などを催すなどネクストステージをつくり、文学の振興につなげてほしい。</p> <p>（おもな改善取り組み等）</p> <p>18歳以下の「U-18賞」を新設した。さらに、ネクストステージとして関西大学での講演会も実施した。</p>	<p>■直近（平成26年度）の受賞作</p> <p>織田作之助賞：「阿蘭陀西鶴」朝井まかて、「世界でいちばん美しい」藤谷治</p> <p>織田作之助青春賞：「ジンジャーガム」柳澤大悟</p> <p>織田作之助U-18賞：「池から帰るふたり」中原らひ</p>	1,000

14	中央公会堂管理運営業務	国の重要文化財である大阪市中央公会堂を維持・活用するため、指定管理者制度による運営を行い、国指定の重要文化財という強みを活かして文化の薫り高い施設をめざし、中之島のシンボルとして都市魅力の向上を図っている。	(おもなアーツカウンシルからの評価、改善提案等) これまで、展示室の設置、ガイドツアーの実施、レストランやショップの改善などがなされた、または予定されているが、PRのためにこれらの周知に力を入れてほしい。 (おもな改善取り組み等) これまでの改善取り組みに加え、学会や魅力的なイベント誘致のための音響等の機能向上も検討している。	■貸館利用者のみならず、一般の来館者にも一部自由に見学できるエリアを設けるなど、近代建築としての魅力を発信し、中之島エリアの魅力向上に寄与。 ■平成26年度実績 正面玄関の開放による入館者数：32,080人（月平均：2,673人） 館内ガイドツアー参加者数：963人（月平均87.5人） ※貸館利用率 H26：69.9%	42,896
15	芸術活動振興事業助成金	大阪市内等で行う公演等に対し、事業費の一部を助成し、芸術活動の振興及び市民の鑑賞機会拡大を図る。	(おもなアーツカウンシルからの評価、改善提案等) 助成対象やその経費、また新たな助成枠も増えたが、助成金を交付することだけに終わらず、助成金のあり方の検討などを事業として含めることが必要。 (おもな改善取り組み等) 新設した特別助成枠を中心に、助成の効果を検証できる仕組み等を検討している。	■平成26年度助成金交付実績 現代演劇など10分野99件 入場者等総参加者数71,443人	63,523
16	文学碑記念の集い	文学碑建立を記念して、文学に関する講演等を行い、大阪に関わる文学や芸術、歴史などを学ぶ機会を提供している。	(おもなアーツカウンシルからの評価、改善提案等) 15基の文学碑の作家を称える催しとすることにより、文学の振興につなげるべき。	■平成26年度は、作家の玄月氏を迎え、文学碑にちなんだ講演を実施した。 また、第2部として、咲くやこの花賞受賞者である桂まん我氏による落語を行った。 文学碑の修繕等維持管理は、調査の結果、洗浄等不要のため未実施。	588
17	文学碑維持管理	文学者の生没の地や文学作品の主要舞台となった場所に設置した文学碑の維持管理を行っている（市内15基）	(おもな改善取り組み等) 大阪市内に建立している文学碑にちなんだ講演を実施。		148
18	芸術創造館管理運営業務	練習室とホールを兼ね備えた演劇・音楽のインキュベーションセンターとして芸術創造館位置付け、指定管理者制度による施設運営を行っている。	(おもなアーツカウンシルからの評価、改善提案等) 公立の劇場・ホールを持っていない大阪市にとっては、芸術文化の練習や発表の場を提供する貴重な施設。指定管理者と密なコミュニケーションを取り、「芸術の創造」につながるような施設運営を望む。 (おもな改善取り組み等) 今年度新たな指定管理者の募集を予定しているが、インキュベーションセンターとしての機能強化を目指す。	■芸術創造館利用率 事業実績比較（H25/H26）：63.3%/67.4%	29,452
19	文楽を中心とした古典芸能振興事業	人形浄瑠璃文楽を、これまで親しみがうすく、文楽劇場に足を運んだことがなかった市民が気軽に楽しめる機会を提供することで、文楽や他の古典芸能への関心拡大、その発展につなげる。	(事業実施に向けた取り組み等) 文楽振興にかかるイベント等を年間10日間行う。平成27年度は、6月に「中之島文楽」を開催し、10月には展示イベント、平成28年3月には小規模公演を実施予定。	■（平成27年度実施済分） 「中之島文楽」（6月14日～16日） 来場者数：約1,800人	35,000
20	芸術文化魅力育成プロジェクト	アーツカウンシルの提言をもとに、大阪を中心に異なるジャンルで活動する事業者が「伝統」をキーワードに協働で企画した芸術文化事業を結集発信することにより、人材の発掘・育成、鑑賞者層の拡大等を図り、文化振興の好循環を確立する。	(事業実施に向けた取り組み等) 実施事業者の公募を行い、選定された事業者とともに大阪の文化の課題解決につながるような実施内容となるよう、鋭意調整中。	—	15,000

⑥「エンターテインメントによる都市の活性化」～ひと・モノ・投資を呼び込む

NO.	施策・取組み	概要	①施策・取組の進捗状況	②これまでの成果	H27当初 予算(千円)
-	-	-	-	-	-

基本方向C「人と地域のエンパワーメント」

⑦「あらゆる施策に文化力を活用」

NO.	施策・取組み	概要	①施策・取組の進捗状況	②これまでの成果	H27当初 予算(千円)
21	地域等における芸術活動の促進事業	芸術文化が持つ力を地域等における課題解決等に活かす活動を促進するため、啓発やきっかけづくり、活動団体等の現状・ニーズの把握に向けたフォーラム・ワークショップ等を開催するとともに、今後の支援のあり方を検討する。	(事業実施に向けた取り組み等) 現状調査等の実施のための委託事業者を決定し、委託事業の一つでもあるフォーラムを開催(8月14日大阪府立江之子島文化芸術創造センター)、以降、フィールドワークなども行いながら調査報告をまとめる予定。	-	10,283

⑧「未来を担う次世代の育成」～子どもの心に感動を！

NO.	施策・取組み	概要	①施策・取組の進捗状況	②これまでの成果	H27当初 予算(千円)
22	舞台鑑賞会(オーケストラ)	おもに学生および初心者、気軽に本格的なクラシック音楽を親しんでもらうため、低価格で鑑賞できるコンサートを開催。	(おもなアーツカウンシルからの評価、改善提案等) この事業の特色をしっかりとPRし、家族連れで来場しやすい価格設定にすれば、集客アップの可能性は高い。 (おもな改善取り組み等) これまでのタイトルから「青少年のための」を抜き、料金を引き下げるとともに、多様なツールを用いてのPRに努めた結果、集客アップにつながった。	■平成26年度は、「enjoy!オーケストラ」と題して、ザ・シンフォニーホールで2回実施。(入場者数計2,142人)	11,660
23	舞台鑑賞会(歌舞伎、能・狂言、文楽)	第一級の芸術公演に気軽にふれる機会を提供	(おもなアーツカウンシルからの評価、改善提案等) 若い世代が伝統芸能に触れる機会は減る一方で、行政が次世代への継承を後押しする意義はある。実施にあたっては、子どもたちの反応をふまえ、常にプログラムを磨いていくことが必要。 (おもな改善取り組み等) 事業実施にあたっては、民間のノウハウをとりいれるプロポーザル方式による事業者選定を行っている。平成27年度からは、落語や上方舞等の公演も実施できるよう「伝統芸能」の枠を新設した。	■平成26年度実施事業 「文楽デー」 6月8日(国立文楽劇場) 入場者数：854人 「こどもと楽しむ能狂言」 2月8日(大阪能楽会館) 参加者数：513人 「初心者のための能狂言」 2月22日(大槻能楽堂) 参加者数：503名 「夏休み親子ペア文楽鑑賞優待」 7月19日～8月4日(国立文楽劇場) 参加者数：2,503人	11,048

24	中高生のための文楽鑑賞教室	国立文楽劇場の初心者向け公演を市立小・中・高校生が、授業の一環として観賞できる機会を提供する	<p>(おもなアーツカウンシルからの評価、改善提案等)</p> <p>小学生から高校生が文楽を観る機会はなかなかないため、その機会を生み出す行政の果たすべき役割は大きい。現状、小学校からの応募がほとんどであり、本来の目的となっている中高生からの応募を増やすことが必要。</p> <p>(おもな改善取り組み等)</p> <p>教育委員会事務局へのヒアリング等を通じて、中学・高校が応募しやすい募集方法を検討している。平成26年度は、校長会での事前説明を行う等した結果、中学校から、かつ全体として応募数が増えたところである。</p>	<p>■平成26年度は、小・中・高あわせて23校2,223名が鑑賞した。</p>	3,510
25	中学生が参加するコンサート	大阪市内中学校の吹奏楽部学生とプロのオーケストラが共演するコンサート	<p>(おもなアーツカウンシルからの評価、改善提案等)</p> <p>中学生がプロのオーケストラと一緒に練習し、同じ舞台に立つ体験型事業であり、鑑賞から一歩進んだ次世代育成事業としての発展が期待できる。</p> <p>(おもな改善取り組み等)</p> <p>第一級の音楽に親しみが持てるよう、また、一人でも多くの学生がプロオーケストラと共演できるような企画内容として実施。</p>	<p>■平成26年度は、計21校504名の吹奏楽部の学生が参加し、観客としては、820名が来場された。</p>	5,604
26	青少年芸術体験事業	市内小中学校で、文楽・歌舞伎・能・狂言等の鑑賞、体験授業を実施	<p>(おもなアーツカウンシルからの評価、改善提案等)</p> <p>平成26年度から伝統芸能に特化して実施しているが、再び現代美術などの他分野でも実施するのかの検証が必要。</p> <p>(おもな改善取り組み等)</p> <p>①現状の伝統芸能については学校側からの要望が多く、継続して実施していく方向。他の分野についても、教育委員会事務局とも随時相談し、検討の可能性を残していく。</p>	<p>■平成26年度事業目標/実績</p> <p>伝統芸能に重点を置いた事業とし、事業団体の運営体制を鑑みて、実施校数24校程度とする。/実施校数 23校(内訳:文楽7校、能8校、狂言8校)</p>	20,956

⑨「文化振興への府民意識の醸成」

NO.	施策・取組み	概要	①施策・取組の進捗状況	②これまでの成果	H27当初予算(千円)
27	文楽を特色とする地域魅力創出事業	大阪を代表する文化コンテンツである文楽を特色とするエリアを市内に新たに創出することで、地域の魅力を高め、活性化し、大阪への観光客や訪問客の増につなげるとともに、文楽の魅力を外へ発信する。	<p>(事業実施に向けた取り組み等)</p> <p>事業実施にふさわしい場所の選定をするほか、内外からの訪問客への情報提供のためのツールとして「文楽ゆかりの地 マップ」を作成予定。</p>	—	3,500